

一スタッフ紹介一

役 職	スタッフ名
部 長	南谷 かおり
医 長	名倉 功二(2月入職)
外来副看護師長	新垣 智子
看護師	谷口 美晴
保健師	岩岡 文夏(10月入職)
国際医療コーディネーター	難波 幸子
国際医療コーディネーター	木村 ガーリー
国際医療コーディネーター	川上 優太(1月入職)
事務員	廣中 司
協力医師 (膠原病内科部長 兼リウマチセンター長)	入交 重雄
協力医師 (総合内科・感染症内科)	三島 伸介

一概要一

国際診療科は、その前身となる国際外来(2006年4月開設)の機能強化を目的として2012年11月にスタートし、医療通訳サービスの提供、院内資料の翻訳、受診に関する問い合わせ対応など、外国人が安心して医療を受けられるような様々な支援業務を行っている。

業務の柱の一つである医療通訳サービスは、当院を受診する外国人患者に対し英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の4言語で受付から検査、診察、会計まで付き添い通訳を行うもので、無料で利用できる(提供日時は言語により異なる)。診療の必要な場面で医療通訳が介在し外国人患者と医療者のコミュニケーションの橋渡しをすることで、言葉が通じないことによるトラブルを未然に防ぐと同時に、満足度の高い医療の提供に繋がっている。通訳件数は毎年増加しており、利用者は泉州地域在住の外国人が大半を占めるが、関西国際空港の対岸という立地に加えて近年の訪日観光客の増加に伴い、外国人旅行者の割合が増えつつある。夜間、週末といった時間外や希少言語の対応については、外部の遠隔通訳サービスが利用できるようになっている。

通訳コーディネートを始め、外国人患者が円滑に、安心して受診するために必要な各種調整・サポートは国際診療科の実務を担うコーディネーターが中心となって行っている。訪日観光客の場合は日本の医療の仕組みに慣れておらず健康保険にも加入していないため、受診の流れや医療費について事前に説明をして理解していただくなど日本在住者とは異なった対応が求められる。

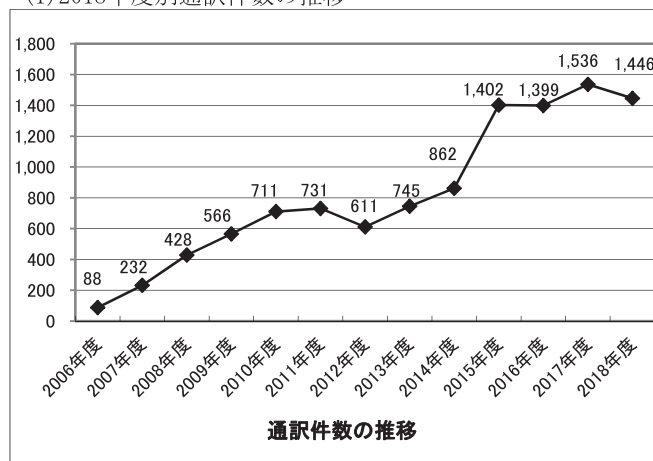
特筆すべき取り組みとしては、当院では10年以上前から医療通訳の実地研修の場としてOJTの機会を提供している

全国的にも数少ない医療機関の一つであり、2015年度からは大阪大学主催の医療通訳養成コースの実習先としても協力している。今後ますます需要が高まると思われるこの分野において、当院は「現場に根差した」医療通訳者養成という重要な役割を担っていると言える。同時に、多言語を話す医療者のフォローアップのもと、「常駐型」の医療通訳サービスを提供していることも当院の特色の一つである。

2013年度からは協力医師の入交医師による米国退役軍人健診を実施しており、国内における数少ない実施機関の一つである。当院は2015年から日本医学英語検定試験の会場の一つとなっており、スタッフの語学力の育成・啓発にも力を入れている。なお、外国人患者受入れ体制に関する客観的評価として、当院は外国人患者受入れ医療機関認証制度「JMP」(バージョン1.1)の認証を有している他、厚生労働省による「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の拠点病院にも5年度連続で選定されている。

一実績一

(1)2018年度別通訳件数の推移



(2)2018年度言語別通訳件数

言語別通訳件数	
中国語	637
英語	430
スペイン語	178
ポルトガル語	102
タガログ語	82
その他	64
合計	1,493

※一人の患者さんに対して2言語で対応する場合があります。

(3)2018年度内容別通訳件数

内容別通訳件数	
診察	831
会計	349
検査	332
説明・相談	242
薬	164
受付・予約	91
診断書等	82
処置・手術	24
翻訳	2
その他	213
合計	2,330

※「その他」には電話対応の件数も含まれる

(4)2018年度診療科別通訳件数

診療科目別通訳件数	
内科	200
消化器内科	91
呼吸器内科	33
循環器内科	20
腎臓内科	12
糖尿病・内分泌代謝内科	18
血液内科	11
小児科	122
外科	35
脳神経外科	10
整形外科	53
形成外科	29
心臓血管外科	7
歯科・口腔外科	15
産婦人科	215
耳鼻咽喉科	53
泌尿器科	53
皮膚科	12
眼科	4
救急外来	82
救命救急センター	72
健康管理センター	32
国際診療科	22
その他	306
合計	1,509

※一人の患者さんに対して複数診療科受診する場合があります。

—国際渡航ワクチン外来—

今年度の国際渡航ワクチン外来の受診件数は442件だった。

接種ワクチンの内訳を見ると、最も多いのが黄熱で、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、破傷風、腸チフスと続いた。2018年6月11日からはDPT(ジフテリア・百日咳・破傷風混合)ワクチンを購入依頼し接種を開始した。また2018年12月25日からは新たに輸入ワクチンの接種を開始した。現在当院で用意している輸入ワクチンは、Boostrix®□(成人用三種混合)、Priorix®(麻疹・風疹・ムンプス三種混合)、Havrix®(A型肝炎)、Verorab®(狂犬病)、Bexsero®(髄膜炎菌B型)、FSME-IMMUN(ダニ媒介脳炎)、Typhim Vi®(腸チフス)で

ある。広い選択肢を用意することで、より質の高い、受診者のニーズに沿った対応が可能となっている。マラリア流行地域への渡航者にはマラリア予防内服薬を処方している。アトバコン/プログアニル合剤は446錠、メフロキンは79錠が処方された。高地へ渡航する方への高山病予防薬としてアセタズラミドが44錠処方された。黄熱ワクチン接種は2018年10月まで1日に15名までの受入人数で行なった。11月より治験として検疫所で接種されることとなったため、接種数は前年度より減少した。

当外来ではワクチンの説明、接種のみにとどまらず、安全で快適な海外滞在を支援するために、海外での疾患流行状況や医療機関、防蚊対策、ダニ刺咬対策等幅広い情報提供を行なっている。

来年度は2019年9月頃に再度当院での黄熱ワクチン接種を再開する見通しであり、さらなる受診者の増加が見込まれる。当院は関西国際空港の対岸に位置しており、海外へ渡航する方々の出国から帰郷までを見届けることのできる医療機関であり、当院における本外来の役割は重要である。今後も国境を越える人々の健康保全に努めたい。

—今年度の成果と反省点—

今年度は、外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)の更新年度であり、各部署の協力を得て、認証制度を更新する事が出来た。全職員向けに「外国人患者対応研修」を開催し、当院の英語通訳が講師として「医療通訳の上手な使い方」というテーマで発表を行い、参加者から好評を得た。2019年2月には中国から治療を目的とする患者を受入れた。また、インバウンドで海外から治療を目的とした外国人患者受入れについてのマニュアルを作成し、他部門と協力し、受入れ体制の整備を行う事が急務課題である。

—来年度への抱負

2019年3月から英語、中国語での診察を希望する外国人患者を対象に、名倉医師による国際外来を開始した。良好なコミュニケーションを理念とする外国人診療を行い、外国人患者の対応で困っている地域医療機関や外国人患者の満足度を高めることを目標に、患者数増加につなげるよう、更なる外国人患者受入れ体制の整備に向けて取り組みたい。